

コマツナ新品種

「のりちゃん(CM-10)」の 特性と栽培の要点

雪印種苗株式会社
園芸作物研究グループ
野菜研究チーム
係長 本多 範久

5

1.はじめに

コマツナは、もともと東京のお雑煮に欠かせない野菜として古くから東京周辺で栽培されてきましたが、近年、その柔らかく、くせのない食味から料理の用途が広がり、高ビタミン、高ミネラルの緑黄色野菜として、関東地方はもとより、全国各地でも栽培されています。作付面積は年々増加傾向をたどり、収穫量も10万tを超えるなど、全国的に周年にわたって栽培される品目に成長しました。

今春より販売を開始した春夏コマツナ新品種『のりちゃん(CM-10)』は、関東地域および関西地域などの春夏播き産地において収量性や葉色、在圃性の良さを評価して頂いておりますが、改めて特性並びに栽培の要点についてご紹介します。

2.新品種「のりちゃん」の特性

1)高温期の栽培でも生育はじっくり

～ 夏期の雨よけ栽培に最適!～

播種後30日前後で収穫できる生育がじっくりの中生品種です。徒長しやすい高温期の栽培でも、生育がゆるやかで収穫適期の幅が広く、在圃性に優れます。特に、収穫適期前後の生育が緩やかなので、従来の品種より収穫適期の幅が広く、特に6月の曇天の時期や大規模な栽培でも比較的余裕をもって出荷ができます。節間伸長や胚軸の徒長が少なく倒伏に強いので、株がまっすぐな良品が得られます。



写真1 濃緑・立性、葉が揃う(露地栽培)



写真2 草姿のバランス良好(露地栽培)



写真3 株揃い、葉揃い良好(ハウス栽培)



写真4 萎黄病に強い(右:のりちゃん)

2)耐病性で収量性に優れる

～ 濃緑・肉厚の多収種!～

コマツナの栽培で問題となる白さび病やべと病に耐病性を持ち、また萎黄病に対して強度の抵抗性をもっております。高温による葉面の縮みや葉縁の巻きがなく、濃緑でしおれにくいいため品質良好です。また、広葉、大葉で葉肉が厚く、葉数が極めて多いので収量が上がります。

3)収穫・調整・結束作業が容易

①草姿

コマツナは作業性を重視する野菜ですが、本種は極立性で収穫時の葉のからまりがなく、葉柄はやや太めで折れにくいいため収穫がスムーズに行えます。また、葉先が垂れにくく、捨て葉が開張性で欠き取りが容易なため調整・結束の能率が上がります。

②葉形・葉面

丸長葉の平滑葉で葉縁の巻き(カブリガ)がないため手にかからず、葉の破れがあ

りません。

③細根量

根付きの束出しの場合、ヒゲ根の多い品種では泥が落ちにくく、ヒゲ根をむしり取ってから水洗にかけますが、本種はヒゲ根が少ないので泥落ちが良く作業性に優れます。

4)荷姿がきれい!

葉は極めて濃緑で照りがあり、高温条件でも葉面に縮みがなく外観が良好です。葉色は葉身のみならず、葉柄・株元まで濃緑で商品性が高く、夏場でも色褪せしにくい品種です。胚軸は短く、根の曲がり極めて少ないため株元がきれいです。

葉数が多く、茎葉のしまりが良いため結束した時に腰部がくびれず、葉先が揃うので荷姿がきれいです。また、葉肉が厚く、日持ち性が抜群で、根切りのFGフィルム詰出荷にも適しています。

品種名	調査日 (月/日)	草姿 (9~1)	葉形 (9~1)	葉色 (9~1)	葉柄の			葉長 (cm)	葉数 (枚)	一株重 (g)
					葉面 (9~1)	株張り (9~1)	太さ (9~1)			
平成26年4月7日播種										
のりちゃん	5/17	7.0		7.0	7.0	7.0	6.5	29.0	15.0	80.0
他社A	5/12	7.0		7.0	6.5	6.5	6.0	32.0	9.0	61.0
他社B	5/17	7.0		7.0	6.0	6.5	6.5	31.3	8.0	72.0
平成27年6月17日播種										
のりちゃん	7/24	7.0		7.0	7.0	6.5	6.5	26.0	16.0	78.0
他社A	7/18	7.0		7.0	6.5	6.0	6.0	27.5	12.0	59.0
他社C	7/24	7.0		7.0	7.0	6.0	6.5	26.0	14.0	66.0
平成26年9月10日播種										
のりちゃん	10/12	7.0		7.0	7.0	7.0	6.5	28.0	10.0	58.0
他社A	10/12	7.0		6.5	6.5	6.0	6.0	32.0	9.0	55.0
他社B	10/12	7.0		7.0	6.0	6.5	6.5	32.0	8.0	48.0

評点基準 草姿：9（立性）～1（開張性） 葉形：丸葉 、袴葉  葉色：9（濃緑色）～1（淡緑色）
 葉面：9（滑面）～1（縮面） 株張り：9（大）～1（小） 葉柄の太さ：9（太）～1（細）

3. 適応地域および作型

栽培作型



4. 栽培上の注意点

1) 夏播き栽培

①ハウスの栽植密度は条間13~15cm、株間4~5cmを基本とします。極端な厚播きでは徒長や節間伸長しやすくなるので、適正な播種密度になるよう、粒形に合わせて播種機を調整してください。

②露地栽培の標準施肥量は10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸15~20kg、カリ15kgが目安ですが、ハウスや高温期の栽培ではそれぞれを8~10kg程度に減量します。

③本種はじっくり生育するタイプのため、土壌が乾燥すると生育の停滞や不揃いにつながります（特に、7~8月播きでは注意が必要です）。発芽後、土壌が極端に乾燥

している場合には、5~10mmを基準に灌水します。立枯れ防止のため、灌水は必ず朝夕の涼しい時間帯に行います。

④高温期になるほどコナガやキシジノミハムシの食害が目立ってきます。露地栽培では播種直後から防虫ネット、寒冷紗のべたがけやトンネル被覆を行い、成虫の飛来を防ぎます。防虫ネットは、うね幅より少し大きめに被覆し、葉が内側からネットにさわらないようにすること、収穫4~5日前には葉の着色および株を少し硬化させるため、ネットを取り除くことが良品生産につながります。

⑤「浜ちゃん」との使い分け

「浜ちゃん」「のりちゃん」はともに春~秋播きの夏コマツナですが、「浜ちゃん」は「のりちゃん」に比べ4日ほど生育が早い

ため、圃場の回転性を求める場合には「浜ちゃん」の方が好適です。収穫作業に追われず、在圃性と収量性を重視する場合は、茎が折れにくく、下葉の欠き取りもしやすい「のりちゃん」をご利用下さい。

2) 春・秋播き栽培

①露地の3月下旬播き、10月上~中旬播きはトンネル栽培を基本とします（一般地標準）。低温期の栽培では生育が極めて遅くなり、株が張りすぎたり、葉柄と葉身のバランスが崩れやすくなります。また、葉色が濃くなりすぎたり、根が太く抜き取り効率が低下します。本種の特性を生かすには春から秋までの温暖な時期に栽培してください。

②本種は白さび病やべと病には強い抵抗性を示しますが、菌密度から発生することもあるため、予防と防除が基本となります。生育初期に予防剤を用いて防除に努めます。

5. おわりに

コマツナは、高温期や低温期など時期によって草姿、収量性が異なるため、有利なコマツナ経営をしていく上で、その時期に適した品種を選択していくことが極めて重要になります。

今回、ご紹介した春夏コマツナ『のりちゃん』は、高温期の栽培でも草姿のバランスが良く、株張りに優れた多収タイプのコマツナです。また、収穫前後に生育がゆっくりとなるため、収穫期間が長く、夏どり栽培に最適な品種です。本種の特性を生かし、また、栽培のポイントを良く理解して頂いて、良品を安定出荷されることを期待しております。